

全国障害者スポーツ大会在り方委員会(第一回)

議事概要

1 日 時 令和 8 年 3 月 26 日(木) 15:00~17:00

2 場 所 日本パラスポーツ協会 4 階大会議室

3 出席者(敬称略 ★印はオンライン出席者)

全委員 22 名のうち出席 18 名(対面 12 名、オンライン 6 名)、欠席 2 名、委員調整中 2 名
【委員】

中森邦男、相澤晴朗、濱野昌幸、太田陽介★、高畑 隆、松井文徳★、延與 桂★、岩渕幸洋、
中道莉央★、市川活水★、小塩康祐、岩田史昭、清水宏祐、太田真美(代理:近藤 靖彦)、
遠藤 翼、藤原正樹、猪飼 聡、緒方 徹★
(欠席:斎藤利之、小林 悟)

日本パラスポーツ協会の藤原委員及びスポーツ庁遠藤委員より挨拶を行った後、議事に入った。

4 議 事

(1)全国障害者スポーツ大会(以下、全スポ)在り方委員会について

事務局より、以下のとおり説明。

- ・ 資料に沿って委員会設置の経緯、趣旨、任期、委員長選任の方法等について
- ・ 令和 7 年 3 月の国スポ有識者会議の提言、現在動いている国スポ改革 TF の動きを踏まえ、全スポの在り方を検討する必要があることや本年2月の開催県からの共同要望を踏まえた検討が必要であることから、全スポの在り方を検討することとしたこと

(2)委員長、副委員長の選任

委員長については猪飼委員が、副委員長については中道委員が推薦され、それぞれ承認された。

(3)大会の在り方について(意見交換)

事務局より、共同要望書等の概要や論点(案)の内容について、日本スポーツ協会の岩田委員より、国スポ改革の背景や国スポタスクフォースの現在の動きについて、説明があり、その後、委員による意見交換を行った。

<主な意見>

1 式典の在り方について

- ・ 全スポでの経験は、障がい者の社会リハビリテーションという観点からは非常に意義深いものであるが、開催地の負担を軽減するためには、「複数県による共同開催」や「場所の固定化」も考えられるし、「開閉会式の簡略化」も選手にとって祝祭性とは何か、社会的リハとは何かを踏まえ、良いところを残しながら簡略化することが今後の方向性。

- ・ 式典の簡略化については仕方が無いと思う。国スポ、全スポの両大会で開閉会式が 4 回あるのであれば、国スポで開会式を、全スポで閉会式を行う 2 回の分散化も考えられる。
- ・ 全国ろうあ者スポーツ大会は 2000 万円程度で開催しているが、全スポは何億必要というお話が出ている。スリム化が必要であろう。
- ・ 全スポの開会式に参加する選手は朝早くから行動する必要がある、選手の負担になっている。国スポとの式典統合化も一案と考える。

2 開催経費の負担軽減、経費抑制について

- ・ 人口減少・高齢化と物価高騰で大会運営にも影響。経費は国スポ・全スポ合わせて当初予定の90億円から平均 20 億円程度も増大する可能性がある。例えば、競技日程を一部変えることで輸送の効率化につながり経費削減を図ることができるようになれば、より持続性が増すのではないか。
- ・ 県も財政が厳しく、「先催県がやっているから」だけでは予算確保が困難な状況。経費削減策や財政措置を前向きに検討して欲しい。県ではいかにお金を掛けずにできるかを考えているので、相談については前向きに検討いただきたい。また、決定事項はすでに準備中の大会にも早期に反映して欲しい。

3 開催時期及び開催期間について

- ・ 宿泊輸送が軽減されるのであれば、開催の時期、期間は分散になっても仕方がないのでは。
- ・ 国スポと全スポでは大会の目的に違いがあることを理解し、全スポは選手たちが 5 泊 6 日の間、他の障がいの選手たちと共同生活することに意義がある。国スポで検討されているような年間開催の形は、引率者の問題等もあり全スポには難しい。
- ・ 両大会の目的、意義に違いがある中で最大公約数を見出すのが課題と考える。
- ・ 貸切バスが、滋賀国スポでは開会式に 200 台強、閉会式に 100 台くらい、滋賀全スポでは開会式に 500 台くらい、閉会式に 400 台くらい必要であった。国スポと合同に開催すれば大幅な経費削減が可能では。貸切バス 1 台で 20 万円かかるので、500 台なら 1 億円という計算になる。
- ・ 福祉タクシーの確保も困難であり、ボッチャ競技を行う前までは 30～40 台であったが、ボッチャが入った栃木から格段に台数が増え、佐賀大会で倍近く、滋賀大会ではさらに多くの台数が必要で、大会期間中に一般の福祉タクシー利用者が使えなくなる問題があった。ボッチャの競技時間の工夫なども必要であろう。
- ・ 全スポが開催されることにより、現地のホテルのバリアフリーのための器具の点検にもなっている。

4 開催の頻度について

- ・ 大会の開催頻度は毎年開催が望ましい。

5 開催地及び競技施設について

- ・ 視覚障がい者が出場する競技の会場は、視覚障がい者が観戦しやすいように、公共交通機関でアクセスしやすい会場を選定してほしい。

6 競技の規模・参加者について

- ・ 国スポと全スポをそれぞれで開催しながら、合同で出来る競技(例えば、国スポのバスケットボールと全スポの車いすバスケットや知的のバスケット)の日程を調整しながら実施できないか。
- ・ 国スポの選手との交流戦などを組むことが出来れば、新たな感動が生まれるのではないか。
- ・ 全スポは競技性と重度障がい者も参加できる点が骨格だと思う大会であるが、若い選手や競技レベルの高い選手には物足りなさがある。組での表彰も良いが、同じ障害区分でトップの記録を出した選手には別の表彰を行っても良いのではないか。
- ・ 団体競技は、ブロック内に強いチームがあると他県が出場できるチャンスが減るので、出場の幅を広げる検討が必要では。
- ・ 競技によっては、国スポと同時に試合を行うことや、トップレベルの部、初心者の部に分けるなどレベル別のカテゴリー設定も良いのでは。卓球などは、同じ障害区分の選手3~4人でリーグ戦を行うのみで試合数が少なく、競技性の面で物足りないのでは。

7 競技の見直しの透明化について

- ・ 障がい者の社会参加が進むような、新たな競技を採用することで地域でのスポーツ活動が広がるのではないか。
- ・ 新しい競技の導入、現行競技の見直しなどの議論が必要。

8 全スポ情報のDB化について

- ・ 人口減少でチーム編成や宿泊施設確保が困難になるのではないか。大会運営のデジタル化(データベース化)を推進し、事務局の負担を軽減すべき。収益性も検討し、持続可能な枠組みを整理してほしい。

9 ボランティアの在り方について

- ・ 知的障がいの団体競技では、引率者が3名に限られている競技もあり、選手の安全管理上リスクが高い。開催県のボランティアに頼らなくても良いように、派遣元の都道府県選手団がサポートスタッフを派遣できる制度が必要ではないか。
- ・ 選手団付きのボランティアとの関わりが難しくなっていて、お互いの負担になっているケースもある。経費削減という観点からも、選手団としてはボランティアが無ければ無いなりにやっていかなくてはいけない。選手団付きの県職員だけでも対応できるような工夫が必要では。
- ・ 滋賀大会で320名のボランティアを派遣した経験として、学生たちにとっては非常に有意義な活動であったと思う。とは言え、ボランティアの役割と責任の定義が曖昧で現場で学生の不安感を生じさせている。
- ・ ボランティアに関して、先催県からの課題や改善点の蓄積、共有がないため、毎回毎回同じ課題に向かい合っているのでは。
- ・ 今後の論点として、学生ボラが担う役割、団付県職員が担う役割、選手団の役員・コーチが担う役割の三層で整理して共有すること、その共有を具体的にどのように行うかまで踏み込んだ議論が必要。

- ・ 持続可能な大会にするためには、ボランティアの位置づけをどうするのか。何のために、どこまでを役割として、それを誰が担い、誰が支えるのか、丁寧に議論が必要。

10 その他

①委員以外の開催県からの意見について

- ・ 今回の委員は奈良県までが構成員であるが、山梨県以降の意見も聞いていただきたい。

②全スポの選手団派遣について

- ・ 国スポ同様、全スポの派遣選手団を都道府県に統一すべきではないか。

③都道府県のパラスポーツ振興施策との関係について

- ・ 都道府県のスポーツ施策にパラスポーツが十分に反映されておらず、指導者も不足している。各県の一般スポーツ団体内にパラの小委員会などを設置して欲しい。
- ・ 大会開催県では、出場した選手を中心としたクラブという拠点を残して欲しい。

④その他

- ・ 大会開催県では車いすの方々が泊まることのできるホテルや部屋の増設も検討して欲しい。
- ・ 持続可能な形で大会を運営していくために、経営的な視点が重要。財政的、人力的にも合理化できるところはどこか、それでもやらなければいけないところはどこかを議論していくことが大事である。
- ・ 課題ばかり挙がったが、主催者から大会のメリットのような資料があればこのような場を出して欲しい。
- ・ 障がいのある人が全スポに参加すること、そして地域で支えていただく方が大会に携わることがハード面、ソフト面でのレガシーとして残ることは間違いない。一方で開催地のコスト増については、ハードの部分も抑えつつ、宿泊輸送の方法などでも削減策を工夫しなければならない。

(4)今後のスケジュールについて

(事務局より、以下の説明を実施)

- ・ 今後のスケジュールについて(資料3)
- ・ 次回の日程について(5月下旬から6月上旬に開催予定)

以上